

安全とウェルビーイング



明治大学名誉教授 向殿 政男
Masao Mukaidono

最近、我が国でもウェルビーイング (well-being) という言葉をよく聞くようになりました。その意味するところは、もともとは「良く (well)、存在する・生存する (being)」ということでしょうか、日本語として、幸福、幸せ、福祉、安寧、生きがい等々、色々な訳し方がされています。第6期科学技術・イノベーション基本計画の中では、「一人ひとりの多様な幸せ (well-being)」という説明付きの英語で出てきています。ウェルビーイングの日本語訳が定まっていないということは、はっきりとした概念として我が国には存在していなかったことを表しています。丁度、安心という言葉が、我々日本人には良くわかるのに対して、欧米の人に説明するのに苦労をするように、すなわち、英語には安心に相当する単語が存在しないということは、欧米ではそのような概念が明確に成立していなかったと思われることと同様でしょう。

ウェルビーイングという言葉が、我が国で良く知られるようになったのは、世界保健機構 (WHO) の憲章における健康の定義、「健康とは、ただ単に病気ではないとか、虚弱でないというだけでなく、肉体的にも、精神的にも、そして社会的にも、完全にウェルビーイングな状態にあることをいう。」にウェルビーイングという表現が使われたことによると思われます。このウェルビーイングな状態を「満たされている状態」、「良い状態」、中には「普通の状態」と訳される場合もあるようです。

これまでの労働安全衛生では、安全は身体的な傷害がないこと、健康は身体的な病気がなく、かつ精神的な障害がないこと等を主として目指してきました。

一方、最近では、欧州から始まったビジョン・ゼロ (Vision Zero) 活動が世界的な大きな潮流になって来ています。ビジョン・ゼロは、「安全、健康、ウェルビーイング」の三つを主な主張としています。働く職場では、安全から健康へ、更にはやりがいや生きがいを含めたウェルビーイングを目指して、前向きな考え方に基づいて進めることを提案しています。

我が国の一般の人びとの安全の考えは非常に広く、身体的、精神的だけでなく、主観的な心のあり方、社会の中での自分の在り方までを含めた非常に広い概念として用いられています。頻繁に使われる安全・安心という言葉が、このことを良くあらわしています。こう考えると、ビジョン・ゼロの唱える安全・健康・ウェルビーイングは、私たちが言うところの安全・安心に繋がるのではないのでしょうか。

我々安全に現場で携わる人間は、安全は事故を無くす、病気を無くすという危すを抑え込むだけでなく、それらを基礎に将来にむけて、意欲的に明るく生きるという前向きな考え方に発想を転換する時期ではないでしょうか。安全とは、未来を明るくするための仕事であると考えたいものです。

公益財団法人総合安全工学研究所 理事・監事

理事長 田村 昌三 東京大学名誉教授
(代表理事)
専務理事 小川 輝 繁 横浜国立大学名誉教授
(執行理事)
常務理事 福 富 洋 志 横浜国立大学名誉教授
放送大学神奈川学習センター所長
常務理事 若 倉 正 英 (国研)産業技術総合研究所客員研究員
(特非)保安力向上センターセンター長

理事 新井 充 東京大学名誉教授
理事 高木 伸 夫 (有)システム安全研究所所長
理事 谷 質 生 日油技研工業(株)川越工場長
理事 三宅 淳 巳 横浜国立大学理事・副学長
理事 安原 洋 東京通信病院病院長
監事 河野 晴 行 (公社)日本煙火協会専務理事
監事 田中 保 正 元(一社)日本芳香族工業会専務理事